

絵本を通しての異文化理解

伊 賀 泰 恵

英語教育の目標にコミュニケーション能力の育成が掲げられているが、単語や文法を使いこなす術を習得することだけであろうか。言葉の背景にある生活の相違を理解して興味をもつことが必要であると考え。外国の文化を理解するために、その言語が話されるその地に住んでみるといいのだが、ほとんどの学習者にとって、まず、その機会はない。そこで、文化的背景を知る上で、学習者にとって、できるだけわかりやすい教材は何かと考えてみると外国の絵本が思い浮かんだ。絵本は最も初歩的に異文化に触れ得る教材であろう。

以上のような発想に基づいて外国の絵本の日本語版翻訳と日本の絵本の英語版翻訳を生徒に課する学習計画を考案し、実践してみた。その活動過程の楽しさと想像をふくらませて間接的経験をすることで、興味と意欲をひきだせないものかと考えた。その結果、生徒は絵本を積極的に選択し、集中して翻訳作業をし、オリジナル翻訳を作成したという達成感を得たようである。楽しく学べたことが、コミュニケーションへの自信にも繋がることを期待する。

1. はじめに

総合学習、異文化理解、英語学習というキーワードをあわせて、生徒が自ら能力の差に関係なく楽しく学習できるものはないかと考え、教材に絵本を使ってみることにした。絵本は幼児を対象にした平易な文が使われているが、絵をとおして想像する世界は年齢に関係なく楽しめる。また、その国の文化や伝統の基層が何らかの形で必ず内容に表れている。そういう意味で、最も易しく適切な教材といえる。まずは、英語絵本の翻訳をすることにした。次に日本の絵本を英語訳にすることにした。

1992年に、英国にて Japanese Festival が開かれ、日本の過去から現代に至る文化、産業、生活が紹介される企画があった。特にその中で、日本の古くからの伝統が、発展した日本の現代社会に生かされていることに敬意が表されていた。その時、私は田園都市に住んでいたが、日本に対して知らない人が多すぎ、しかし知りたいという関心も非常に高いことに驚きを覚えた。そこで、英国の小学生、またその先生に日本昔話の紙芝居を読み聞かせた時、熱心に耳を傾け、私たち日本人への理解を深めてくれた経験がある。今日まで日本は外国（特に西洋）の文化を模倣、吸収することは多かったが、もうその時代は終わったのではなからうか。日本という国に興味をもつ外国人はふえている時代である。たまたま、日本の絵本がアジアの子供たちに喜んで読まれている記事を見つけて、自らの経験も踏まえて、英語を媒体に日本の文化を発信していきたいと考えようになった。

2. ねらい

絵本で使われている言葉は生活に密着して authentic であるから、絵からも文化の違いを、そして文化あつて言語があるということを、翻訳という作業で発見してみたい。また、母国語習得の初期の段階で使われる英語の絵本は、英語嫌いの生徒にとって、英語学習の動機づけになるのではないかと期待する。

更には、外国の物語ばかり受け入れるのではなく、日本の物語を紹介する発信型翻訳の作業にとりくみたい。そこで、新聞に記載されたボランティアの記事を紹介する。日本の絵本をアジアの子供たちに送るというもので、日本語を英語に訳して、それをアジアの現地語に訳して紹介するというプログラムである。日本をいかに紹介していくか、英語をとおしてできることの一つとして、生徒が不用になった絵本を持ち寄り、英語に訳し、それをその主催者へ送ることにする。ここでは、それをねらいとした実践報告をする。

3. 対象学年：高校2年生

4. 実施時間数：9時間（1学期 週1回）

5. 学習課程

(1) 第1時間目

導入：絵本翻訳コンクールで賞をとった日本語翻訳本を紹介：「サンタのトナカイがいなくなったクリスマス」（訳：たにがわ ともこ／出版社：新世研）あわせて、日本の昔話の英訳版紙芝居（桃太郎、鶴の

恩返し、かぐや姫)を紹介することで、生徒自身も翻訳したいという動機と、自分でも翻訳出来るという自信を持たせる。

(2) 第2～第4時間目

英語の絵本を日本語版に翻訳：一人1冊本を自分の興味また能力に応じて選び、自分の絵本を作成していく。(翻訳するという個人の活動をする。)B5用紙を配布 生徒の完成する進捗が違うので、早く終了した生徒には英字新聞を読ませる。

(3) 第5、6時間目

ビデオ鑑賞：宮崎駿の作品がアメリカで紹介され、そのファンも多い。英語に吹き替えされた日本の作品、*Totoro*, *Kiki's Delivery Service* のビデオ鑑賞し、人気の秘密を探る。英字の字幕つきで英語を確かめる。

(4) 第7～9時間目

英字新聞に掲載された絵本ボランティアの記事を読む。

The Daily Yomiuri からの抜粋

NGO brings favorite of children to Cambodia

One of Japan's best-loved picture books for children, "Guri to Gura," has been translated into the Khmer language and published in Cambodia with the help of a Tokyo-based nongovernmental organization.

.....略

During more than 20 years of turmoil and civil war in Cambodia, many books were thrown away or destroyed. With the country finally on the road to recovery, children's books remain low on the list of publisher's priorities.

..... 略

日本の「ぐりとぐら」という絵本がカンボジアで現地語に訳され、子供達に喜んで読まれている記事である。他にもインドの子供達に、現地語に翻訳された日本の絵本を贈るために、英語訳をするというボランティアの募集の記事もあった。

少しでも協力できればということで、生徒から提供された日本の絵本(たなばた、ちいさなねこ、大きなかぶ、きつねとねずみ、かばくん、大工とおにろく、ジプタ君)を英語版に翻訳することにした。1グループを5～6人とし、グループ毎に日本の絵本を1冊選び、英語に翻訳する。(教室での作業：2時間)

完成した作品をe-mailで送信するために、コン

ピュータールームで、グループ毎の作品を仕上げる。(コンピュータールームでの作業：1時間)

6. 生徒の作品の紹介

【例1】

絵本のタイトルを、内容を理解した上で、下記のように、日本語のタイトルをつけている。

MR. STRONG 力持ち君 (女子)
MR. MESSY むさ男さん (男子)
MR SLOW ゆっくりおじさん (女子)
MR. IMPOSSIBLE できるんです (女子)
MR. FORGETFUL 忘れん坊君 (女子)
GUMPY'S' OUTING ガンピーさんの散歩 (女子)
MR. BOUNCE ポン吉さん (女子)
ONE SNOWY NIGHT ある雪の降る夜 (女子)
THE MIXED-UP CHAMELEON カメレオンでなくなったカメレオン (男子)

messy が、むさ苦しいという意味から、“むさ男”という新語を作ったり、impossible 不可能という意味なのに、“できるんです”と全く反対の言葉を思いつきり使っている。

また、The Mixed-up Chameleon というのはカメレオンが、毎日の自分の非凡さに飽き飽きしていたところ、ある日動物園で、いろいろな動物に会い、良いところばかり、これの一部を、あれの一部をと願ったところ、mixed-up chameleon になるわけだが、もともと長い舌でさっと蠅を捕らえることができていた自分が、何もできなくなり、やはり、もとの自分が一番良いという話である。これを、単に“ごちゃまぜカメレオン”と訳さずに、“カメレオンでなくなったカメレオン”とした生徒の感性はすばらしい。

【例2】 後掲資料1を参照

生徒の翻訳の作品を一部抜粋で紹介する。英語の絵本は各自違うものを選ぶ。シンプルな描写なので読み手は想像をふくらませ、好きなように自分を重ねることができる。絵を描いて、絵本としての装丁にこだわった者もいた。予定より時間を要する事になった。宿題という形式をとらず、授業時間内の作業である。

【例3】 後掲資料2を参照

各グループが分担して英訳をし、リーダーを中心に推敲した。生徒同士が添削しあう時間が十分欲しかった。

7. 生徒の発見と感想（アンケートから）

○ 英語の絵本の翻訳について

*擬態語は英語でも感じが伝わってくる。感覚は共通だと思った。

例：Brrr.. Bounce BANG OUCH
SPLASH etc.

*日本語で訳すと1語なのに、英語ではたくさんの表現があることに気付いた。

例：笑う：giggle, chuckle, smile, laugh, grin

掘る：shovel, dig, mine

小屋：milking-shed, farm house, hen-house,

*日本語らしい日本語にするには、勘で訳すくらいがちょうど良いかと思った。

*日本でもよくありがちな話だなと思った。

国にかかわらず、小さい子供に伝えようとすることは、同じかと思った。楽しかった。

*動物の泣き声が日本と違った。

*聞きなれない人名が様々あって興味深い。

○ ビデオ鑑賞について

*「となりのトトロ」は日本特有の風景を背景にしているので英語で話されると違和感を感じる。一方、「魔女の宅急便」は舞台が欧米ふうで、違和感をあまり感じない。

*この日本独特のものは、訳せないものがあって、外国人は理解できるのだろうか。どんなところを面白いと感じるか。

*日本特有な風景も視覚に訴えるものがあるし、文化が違って人間心は普遍的なものだから、理解もできるのではないだろうか。

○ 英訳について

*やさしい日本語ではあるが、手間取った。

*はじめてコンピュータールームを使ってワープロを打ったので楽しい。

8. 今後の課題

(1) 教材としての絵本について

① 絵本は内容が高校生には易しいすぎる、と思

る面もあるが、理解しやすく、とても楽しいものであったようである。教育的意図が前面にでているものは楽しくないと生徒も考えるが、たくさん用意された絵本の中から、自分の好みに合ったものを自由に選ぶことができれば一層楽しさを増すようであった。前述のように言語において生徒自らの発見が多くある。訳をする時、日本語を選ぶにあたって、日本語の力も試される。生徒は黙々辞書と取り組んでいた。日本語を操る能力と自分の体験の豊富さが、反映され、解釈が深まることも楽しいことの一因でもある。活字になったものが唯一の正解であるというわけではなく、オリジナル翻訳版をつくる楽しさがある。適切な絵本を提供する必要はあるが、絵本は幼児だけのものではないといえる。

② 絵本は非常にコミュニカティブである。外国語学習では、とかく決まった表現を覚えるとそれしか使えないことがあると言われる。例えば、How are you? と聞かれ、元気でもないのに、I'm fine. と答えてしまう場合がある。他の言い方を知らないわけで、実際には、生活とはかけはなれた言葉になってしまう。絵本のなかには、基本的な生活があり、生活に密着した言葉があり、間接的経験ができることになる。コミュニケーションを楽にすることができると思われる。絵本を読むことで、高校生でも英語表現の多様性を知ることが出来ると言える。

例 *Mr. GUMPY'S OUTING* からの抜粋

May we come with you? said children.

Yes, if you don't squabble.

Can I come along? said the rabbit.

Yes, but don't hop about.

I'd like a ride. said the cat.

Very well. But you're not to chase the rabbit.

Will you take me with you? said the dog.

Yes. But don't tease the dog.

May I come, please? said the pig.

Very well, but don't muck about.

Have you a place for me? said the sheep.

Yes, but don't keep bleating.

Can we come too? said the chickens.

Yes, but don't flap.

Can you make room for me? said the calf.

Yes, if you don't trample about.

May I join? said the goat.

Very well, but don't kick.

「行ってもいい? いいよ、～ならば。」

という日本語にあたる英語表現を前述の対話の中に多くみることができる。生徒がこれを知ること、英語を使って発信する時に工夫することができるの

ではなからうか。

③ 絵本は言葉の遊びがあり、言葉や文のくりかえしがある。

例：MR. MESSY からの抜粋

Mr. Neat hoed and mowed and pruned and snipped and clipped and dug. and made the garden look neater than it had ever looked before.	Mr. Tidy cleaned and primed and rubbed and painted and mended and made the outside of Messy's house look tidier than it had ever looked before.
---	---

このように、文章の書き方が、視覚的にも工夫され文を明瞭にしているのです、理解しやすく、外国語学習に効果がある。日常語は高校生であっても、知らない語も多く興味深い場合もある。

また次の例は中学校1年生において、導入として使用した教材である。

The Very Hungry Caterpillar からの抜粋

On Monday he ate through one apple, but he was still hungry.	On Tuesday he ate through two pears, but he was still hungry.
On Wednesday he ate through three plums, but he was still hungry.	On Thursday he ate through four strawberries, but he was still hungry.

このように、一週間の曜日が同じパターンで繰り返されている。まだ、アルファベットを読むことがおぼつかない中学1年生の生徒に、これを授業の導入として読み聞かせたのであるが、生徒は興味を示した。全員の注目を集めたといっても過言ではない。生き生きした絵が彼らの理解を助け、また、そのリズムが良いので、自然に曜日の単語は定着してしまっただけである。どの言語においても、母国語を習得するにあたり、手本を真似し、単純で断続的な繰り返しかえしをすることから習得できる。容易であること、繰り返し練習することが基本である。従って、外国語学習においても、このような絵本が、導入や学習の動機付けのところで、効果的といえる。

④ 教科書の語彙は限られており、日常語をかけ離れることが多いが、絵本の言葉は実用的である。

同時にその国の文化を表している。言葉をとおして生活、文化の違いを感じることができる。

例えば、同じ意味合いの言葉でも、他の言語では言葉の種類が多ければ、その対象となることのとらえかたが国によって違うとわかる。

また、題材によっても文化の違いを見つけることができる。例えば、teddy Bear がよく登場する。西洋の英語圏では、子供が誕生した時、くまのぬいぐるみをプレゼントすることがよくあって、子供には、身近な存在といえる。またマザーグースの登場人物が絵本に登場することも多い。

また次の例の題材からも、生活の違いをみいだすことができる。

The Little House からの抜粋

Time passed quickly for the Little House as she watched the countryside slowly change with the seasons. In the Spring, when the days grew longer and the sun warmer she waited for the first robin to return from the South. She watched the grass turn green. She watched the buds on the trees swell and the apple trees burst into blossom. She watched the children playing in the brook.
--

美しい絵とともに、楽しく流れるように活字が並んでいる。

この話は、時の流れとともに町ができあがっていく様が描かれている。その巨大都市の中で小さな家が埋もれるように残っているのだが、その子孫が、もとの自然に囲まれたふさわしい場所にその小さな家を引っ越しさせていくのである。それをりんごの木が見守っているかのように、小さな家とともに描かれている。

日本人にとっては、桜の木が生活に密着しているように、ここではりんごの木がそうである。彼らにとって、りんごは身近な樹木であり、ロビンは仲良しの鳥といえる。家をトレーラーに乗せて引っ越しさせるなんて、我々からすると考えも及ばないことだし、古いその家を数百年に渡っても大事にしようとするなど新たな発見があった。

⑤ 欧米の作品に限らず、アジア等の作品もあった

ら面白い。

(2) 対象学年について

以前、絵本の日本語訳を高校1年という学年で英語学習の動機づけとして試みたことがあったが、積極的に作業ができた。高校に入学したばかりなので、英語能力の差が、すらすら訳せる生徒もいれば、易しくても完成できない生徒もいた。しかし共通して楽しめたようである。

今回は高校2年という学年なので、英語の能力はあまり問題はない。同じく、自主的に学習することはできた。しかし、作品の仕上げかたに個人差があって、予想外に時間はかかった。

生徒の知的好奇心を充たすような内容を選べば、高2という学年でも十分楽しめる。また authentic なものに慣れさせることで、英字新聞など読むことへ繋がっていくことを期待する。

英語訳となると、やはり、難しいようであるが、グループ制作ということは、効を奏した。

(3) 作品の活用の方法について

- ①生徒が自分の作品を発表したり、意見交換をする時間があればよかった。もっと時間があれば、コンピューターを使って、各自の作品の制作ができる。
- ②ビデオをみての生徒が不思議に思うこと（人気の秘密）を、外国の生徒にアンケートなどしてみるとおもしろいであろう。
- ③生徒がコンピュタールームの使用にも不慣れだったこともあり、グループとしての作品は未完成に終わった。一つの作品にして役立てたいと考えている。

(4) 総合学習としてのまとめ

作業が盛りだくさんで、初めに立てた“ねらい”を最後まで達成するのに、時間が足りなかった。できれば、日本の文化・伝統を語る絵本の紹介という、日本発信型のことをやりたいと思っていたが、結果的にその方が最後まで完成しなかったので、どちらかといえば外国のものを理解するという受信型に重きがおかれたといえよう。異文化理解をテーマとした総合学習としては、当然、双方向のものが理想だが、それは限られた時間では達成が難しいということがよくわかった。もっと焦点を絞り、ゆっくり時間をかけて調査し、拡大していく方法を考えるべきだったようにも思う。これからの大きな課題としたい。

しかし、今回の総合学習を通して、生徒それぞれが、今や日本が国際化へ向かう中に自らも置かれ、

そこでは当然、自国の文化や伝統、意識を世界に語らねばならないという要請があり、そこで自分の力で発信していかねばならない必要性を認識したのではなかろうか。日本を考え、日本を紹介しようとする最初のステップを踏んだことと思う。

参考文献

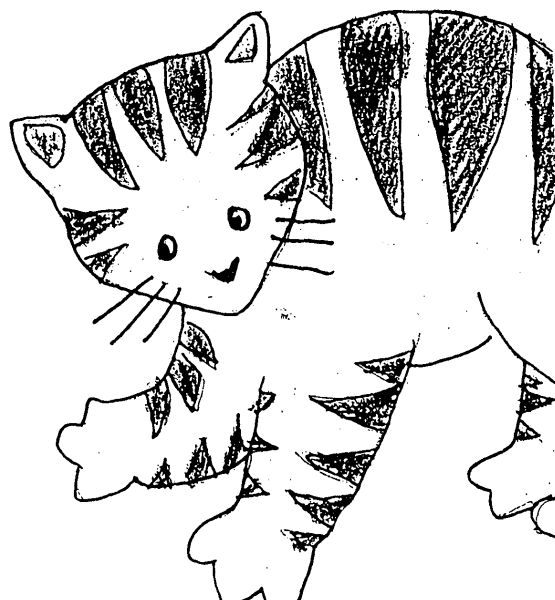
- The Daily Yomiuri
A Mr. Men Classic by Roger Hargreaves (World International Publishing Limited)
The Very Hungry Caterpillar by Eric Carle (Penguin books Ltd)
The Little House by Virginia Lee Burton (Sandpiper Houghton Muffin books)
Mr. Gumpy's Outing (Penguin books Ltd)

(資料1) 生徒のオリジナル翻訳本の一部抜粋

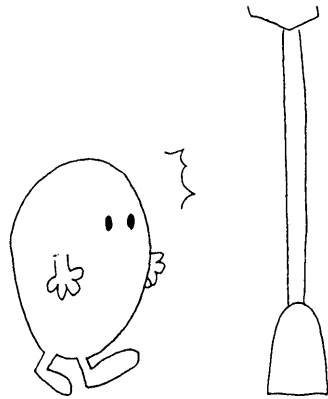
① FARM DAY by Claire Henley

ねこがおひさまのしたで
伸びをします。

Ginger, the cat, stretches in the sun.



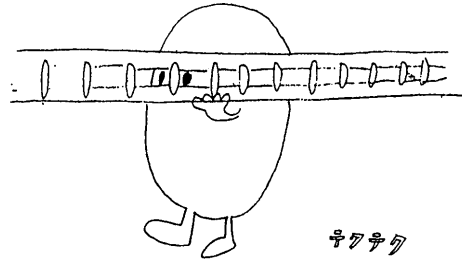
② MR. BUMP 独自の絵を創作している。



11:70さんの悲しいお話。

11:70。マシー。いつもな人がニコニコした。
 な人がぶつかりそうなものには全部ぶつかると、て！
 たよえはさー。
 道を歩いている時、たにかか ぶつかること
 ないかな？ おこると思う？
 わかるかい。

電柱に
 なんとぶつかるか
 ぶつかる話。



家でこそぶつかりはらかり。
 この前の朝、きのうの台風で
 直そうとした時のこと。

「あちてく前に直さなく、ちね。
 はしこを材料でいこう」
 なんとそのはしこは、す、す、す、

長ーぽ。

This is the sad story of Mr Bump.

The trouble was that Mr Bump just could not help having little accidents.

BUMPI!

If there was something for Mr Bump to bump into, he'd bump into it all right.

For instance.

If you were to see Mr Bump out walking down a street in your town, and if there happened to be something to bump into down that street, then you know what would happen, don't you?

Mr Bump was just the same at home.

He lived in an extremely nice home, but even there he couldn't help having those little accidents.

③ MR. SLOW 「ゆっくりおじさん」

「こん…は…ん…は…。」

「9…時の… ニュース… です。」

読むのに深夜までかかりました!

そして、テレビを見ていた人はみんな
 眠ってしまいました。

この仕事は向かぬからみたい。

そうでしょう?

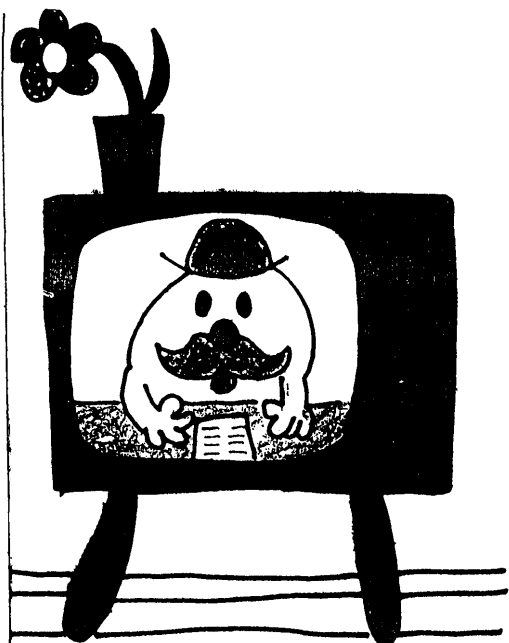
"Good . . . evening . . ." said Mr Slow. "Here . . . is . . . the . . . nine . . . o' . . . clock . . . news."

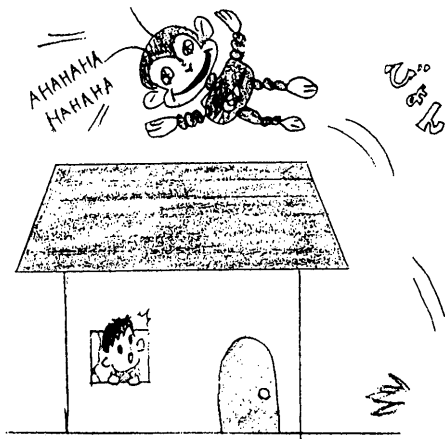
It took him until midnight to read it!

And everybody who was watching went to sleep.

So, that job wasn't any good.

Was it?



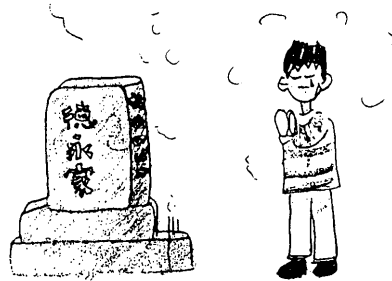


できるんですは とてもすごいことができるんです。たとえば 家をとびこえたりするんです。

さあ あなたもやってみよう。
ぜひいい時間だよ!

Mr Impossible could do the most amazing things.
For instance, Mr Impossible could jump over a house.
You try it.
It's impossible!

④ MR. IMPOSSIBLE 「できるんです」
独自の絵を創作している。



できるんですは どうもい人周りにだって
なれるんです。
彼はそこに立って、どうもいにならな
と思うだけで どうもい人周りになれるんです
さあ あなたもやってみよう。
できないだらうなよ

And Mr Impossible could make himself invisible.
All he had to do was stand there and think about becoming invisible, and he became invisible.
You try it.
It's impossible!

「なてこった!」良男は、お土男の家を
見たとき そう言いました。
「なにや、こりや」と掃除屋がつけかえ
二人は同時に、「二人の家、生まれまじ
見よ」と言いました。
「どうにかするしかないや」と良男が言うと
お土男が、何か言う間もなく、二人は
お土男の家に「かま」がと入り込んで
いきました。



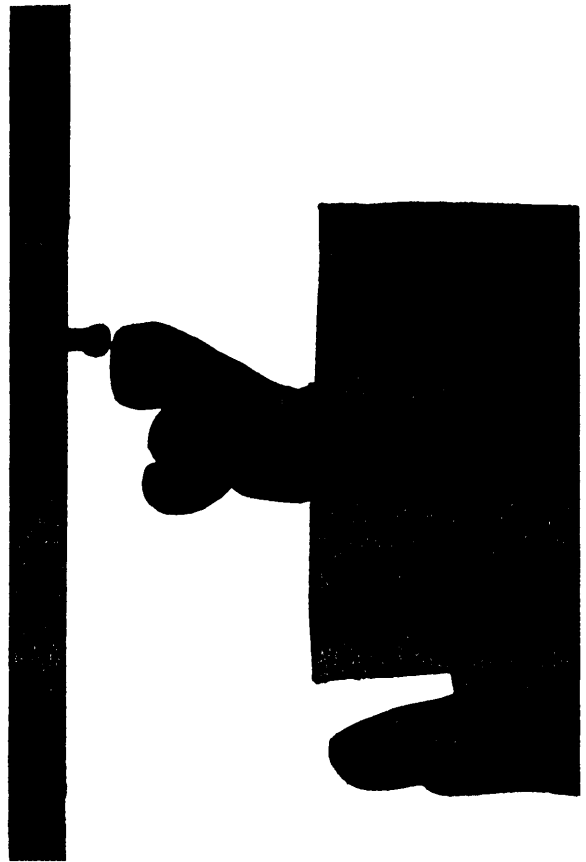
⑤ MR. MESSY 「むさ男さん」

"Good heavens!" said Mr Neat when he saw where Mr Messy lived.
"Good gracious me," added Mr Tidy.
"This is the messiest house I have ever seen in all my born days," they both said together at the same time.
"Better do something about it," said Mr Neat.
And before Mr Messy could open his mouth, the two of them were rushing here and there about Mr Messy's house.

カ持ちくんは、とってもカ持ち。
指で"ポン"と押した"だけ"で、
釘を壁に打ち込めるんだ。
名前も強いし 生まれつき
すごいカ持ちなんだよ。
そんな カ持ちくんの 強さの
秘密を知りたい？

Mr Strong is so strong he can hammer nails into a wall just by tapping them with his finger.

Strong by name and strong by nature!



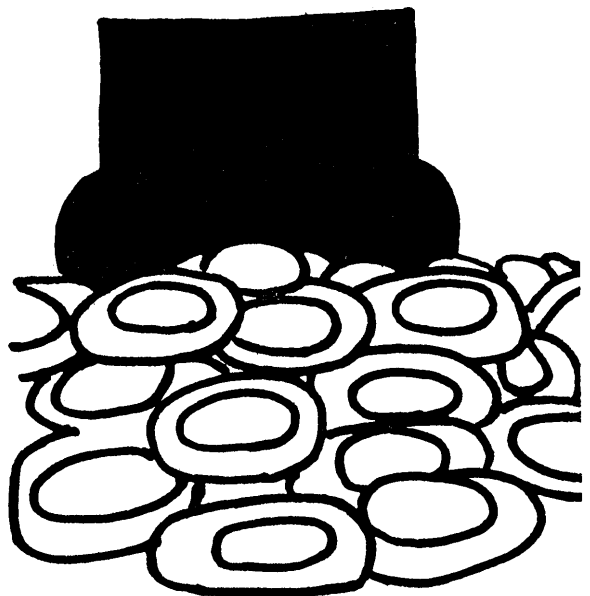
たまご"なんだ"よ!
食べれば"食べるほど"
"どん"どん "どん"どん
強くなるんだ。
もっ"と、もっ"と、もっ"と、もっ"と!

And would you like to know the secret of Mr Strong's strength?

Eggs!

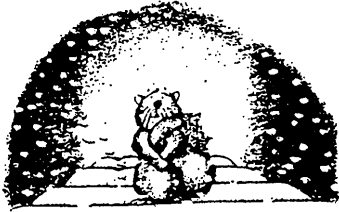
The more eggs Mr Strong eats, the stronger he becomes.

Stronger and stronger and stronger!



⑦ ONE SNOWY NIGHT 「ある雪の降る夜に」

by Nick Butterworth



階段に立っていたのはりすでした。とても寒そうでかわいそうです。

「眠れないんだ、パーシー。」りすは言いました。「僕のベッドは雪がいっぱいなんだ。」

「そうかそうか。心配しなくていいよ。2人分の場所は十分あるよ。」



りすは、パーシーの横に寝ると気持ちがよくてすぐに暖かくなりました。

‘コン、コン’トアがまた鳴りました。

「今度は誰だろう。」

There on the step was a squirrel. It looked very cold and miserable.

"I can't get to sleep, Percy," said the squirrel.

"My bed is full of snow."

"Oh dear," said Percy. "Never mind, I've got plenty of room for two."

The squirrel snuggled down next to Percy and soon began to feel warm.

Knock! Knock! It was the door again.

"Now who can that be?"

thought Percy.

外に立っていたのは震える2匹のうさぎでした。

「凍りそうだよ。」1匹が言いました。

「凍、ちゃうよ。」もう1匹が言いました。

「かわいそうに。入ってお暖まり。」

うさぎたちは、パーシーとりすの隣りに何とか入り込みました。余裕はもうほとんどありません。

「違う方向を向けないかい。」

パーシーはりすに尋ねました。

「お前のしっぽが私の鼻をくすぐるんだ。」

‘コンコン’

「おやおや、また誰か来たぞ。」



Standing outside were two shivering rabbits.

"It's f-freezing," said one rabbit.

"We're f-frozen," said the other.

"You poor things," said Percy.

"Come in and warm up."

The rabbits squeezed into the bed next to Percy and the squirrel. There wasn't much room.

"Could you face the other way?" Percy asked the squirrel. "Your tail is tickling my nose."

Knock! Knock!

"Oh dear," said Percy. "Now there's someone else at the door!"

(資料2)

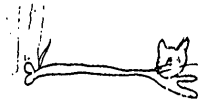
英語翻訳については、添削していない。

①

There is a small cat in a large room.



Hey, the small cat onto the yard
Is she safe to go out alone. while
mother didn't look at.



Oh, she started to run!
She is out the gate and run
and run.



A boy caught the kitty,
But, the kitty scatched his hands
and ran away.



②

Long long ago, there was a river which ran very fast and was wide.
It ran so fast that the village people could not built any bridge across the stream.
They were in trouble.

「だいくとおにろく」 松居 直再話

むかし、あるところに、とても ながれの
はやい おおきな かわが あった。
あんまり ながれが はやいので、
なんど はしを かけても、たちまち
ながされてしまう。
むらの ひとたちは、とんと こまり
はてていた。

「ちいさなねこ」 石井桃子 さく

1 ちいさな ねこ、
おおきな へやに
ちいさな ねこ。

2 おや、ちいさな ねこが にわに おりた
おかあさんねこが みていないまに、
ひとりで でかけて だいじょうぶかな。

3 あ、はしりだした。
もんをでて どんどん はしっていく

4 こどもが、こねこを つかまえた。
でも、こねこは
こどもの てを ひっかいて
にげだした。

絵本としての体裁を考えて工夫している
ところがみられる。

③ Mr. KABA, the hippotamas

Moning has come in the zoo

Who is the eariest rither?

?

Hey! Get up, Mr.KABA!

It's eleven in this zoo

Say 'I'm drowsy' if you are sleepy

You're sleeping so I'm dull

'Hi, Mr.KAME,the turtle'

'Hi,Mr.KABA'

「かばくん」 岸田衿子さく

おきてくれ かばくん どうぶつえんは もう 1 1 じ ねむいなら ねむいといてくれ つまらないから おきてくれ

や かめくん や かばくん

④ 「たなばた」

Once upon a time, there were seven 'tenryo' -like a angel - in the west of the milky way.

Everyone was good at looming and they loomed very beautiful ciouds.

'Orihime' the youngest 'tenryo' was the best among them.

In the east of the milky way was the human world. A cowboy and his old cow lived there.

One day , the old cow speaked, 'Now "'tenhyo "' come to bath in the milky way. Go and hide "'Orihime"' s kimono.'



(翻訳の作業風景)